

「お客様係さんへ」 の手紙

静岡に住んでいた父母が七十歳をこえて、家から五分ほどのマンションに引っ越してきました。体があまりいいことをきかなくなつて、近くにやつてきたのです。引っ越しの日、荷物を片づけていると、母が手紙を見せてくれました。

「お客様係さんへ」とあって、「よろしく願います。二十五年親しんでくださった私の大切なお客様です。喜びのタネまき新聞をご夫婦読んでくださっています。かならずおとけてください」と書いてありました。静岡のダスキンさんが来るのはいつも昼下がり、母とお茶飲み話がはずんでいたのを、私もおぼえています。こちらでもダスキンを使いたいという母に、新しいお客様係の方へのバトンタッチをお願いでした。

わが家を受け持ってくださいている方に母のほうのレンタルもお願いしたら、次の交換日に、

「おかあさん、すごいきれいな好きなんですってね。静岡のハーティさんが言っていました。私がお世話しますって、静岡まで電話をしてくれたのだそうです。こんなネットワークがあるのだと、ちょっと感動でした。」

——東京・八王子の山口宏子さんからのおたよりです。目には見えないけれど、日本中のハーティさんがお客様を中心にこんな心の糸で結ばれていてほしいと思っています。

株式会社ダスキン会長

伊東英幸

写真・市谷健 雪ダルマといっしょに「ヤッホー！」



no.501

喜びのタネまき新聞

読む人の幸せを心に願って作る

子どもの目は、ときにおとなの見る世界と違う不思議な光景を拡大して捉えることがあります。心に焼き付いた強いイメージは版画づくりのモチベーションにも転化します。

三、四歳の頃のことだろうか。父は僕をあぐらの上に乗せ、近所の遊びに来ていたおじさんと話をしていた。

漁師の父は、夜釣りの自慢話でもしていたのだろう。おとな同士の話なので、僕はしばらくひぎの上でじっとしていたが、退屈なので、なんとなく父の顔を見上げた。

すると、目の前になぜだか父の首すじが、ドーンとクローズアップで現れたのである。日に焼けた首には太い血管が浮き出て、あごや耳のほうへ走っている。

盛り上がったところは、子どもの目から見ると、面白いリズムで脈打っているのだった。働く男の首筋だった。

僕の絵に登場する男達は、亡くなつてから三十年以上もたつ父の面影だが、この横向きの顔には、必ず太い血管を持つ太い首が描かれ、あのハンヤ節のようなりズムを打っているのです。甌島では大漁や宴会の時に、ハンヤエー、ハンヤ、とこの民謡を歌い、踊ります。



絵と文 版画家 中野洋一

版画家、陶彫家。鹿児島県生まれ。故郷の風物等をテーマに木版画や陶彫を制作。1995年には朝日新聞日曜版のカットを連載。オランダ国際版画ビエンナーレ展入選など国際的にも活躍。

ヘルシーでしつとりとした食感 「米粉のマフィン」

うるち米やもち米を粉末にした米粉は、独特のしつとりとした食感があり、最近では米粉を使ったパンやお菓子がブームです。今回作るのは、ドライフルーツをまぶした紅茶風味のマフィン。

◎作り方（6個分）

●下準備

市販のドライフルーツミックス50gを沸騰したお湯の中に入れて、火を止めてから30秒くらいした後、ざるにあけて水気を切っておく。
バター30gは湯煎にかけて溶かしておく。



バターは湯煎にかけて溶かしておく

出来た生地をスプーンでカップ8分目くらいまで、等分に入れる。残しておいたドライフルーツをトッピングする。



直径7cm・高さ3cmのシリコン製のカップ*を使用

●オーブンで焼く

170℃に予熱しておいたオーブンに入れて15〜20分焼く。焼き上がり真ん中を竹串などで刺し、生地が付かなければ中まできちんと火が通っています。焼き上がったなら、熱いうちに型からはずし、網の上などで冷ましておく。

しつとりマフィンの出来上がり。今回は小麦粉を混ぜ合わせましたが、米粉だけでも作れます。



米粉は溶けやすく、サラサラしているので、ダマになりにくく、扱い易いのが特徴。

おやつ時間

簡単、美味しい楽ラクレシピ



お料理研究家 こいけりえ

●生地をつくる

米粉120g、薄力粉30g、ベーキングパウダー小さじ1を合わせてふるいにかけしておく。
ボウルに大きめの卵1個を入れて溶きほぐし、グラニュー糖100gを加え、全体が白っぽくなるまで泡立て器でしっかり混ぜ合わせる。紅茶の葉小さじ1は、めん棒などを使って細かくつぶし、牛乳40ccの中に入れて、ふんわりとラップをかけ、電子レンジで熱くしすぎない程度に30秒くらい温める。
混ぜ合わせた卵の中に、溶かしバター30gと温めておいた紅茶入りの牛乳を入れて、さらに混ぜ合わせる。その中にふるいにかけた粉を入れて、ゴムベラを使ってさっくりと混ぜ、戻したドライフルーツも加えて混ぜる。このとき、ドライフルーツはトッピング用に少量とり分け

みてもらおう！

見てうれし、見せてうれし、この写真。わたしの出番の1枚を送ってください。



ひいおじいちゃんと一緒に
愛媛県四国中央市 長谷川美春



我が家のわんぱく坊主たち
静岡県 渡辺正代



「ソリ遊びが大好きなんだ♪」
秋田県鹿角市 守田由紀子

家族や友だちにしか撮れないステキな笑顔、みんなに見てもらいたいわたし好みの1枚。もちろんかわいいペットも撮れたら送ってください。お待ちしております！（詳細は7ページ）

今回も前号に引き続き、あの人に伝えたい「ありがとう」のエピソードを載せさせていただきます。紙面が小さいため、いただいたお便りの一部しかご紹介できないのを残念に思っております。

「喜びのタネまき新聞」で一番長く続いている、読者からのお便りのコーナー、「ほほえみのひろば」はとても人気があります。お一人だけでなくご家族や仕事場で回し読ましてくださる方もおられます。30年ほど前に、小さなお子さんのお話をお寄せくださった方が「孫ができておばあちゃんになったの」とまたお便りをいただくこともあります。長年にわたるご愛読ありがとうございます。

に感謝しております。また、小中学生からのお手紙で、かわいい文字を拝読するのうれしいことです。今回も幅広い年代の方々の様々な「ありがとう」のエピソードをいただきました。いつまでも、喜びのタネをまき続ける新聞でありたいと願っております。

アリガト



ニコリ

バスの運転手さん
愛媛県ダスキンタカモリ 山本美保 58歳



バスが終点に着き、降りる時のことでした。ベビーカーに赤ちゃんを乗せたお母さんが小銭の持ち合わせがない様子。

「1万円です」と聞いて、運転手さんには10人ほどが並んでいます。すると…、「両替は出来ませんが、いくらでもいいので持っている小銭分だけお支払いをいただけますか。不足分は次にご乗車いただいた時で結構ですので」「すみません」

戸惑いながら降りようとする若いお母さんに「ベビーカー、大丈夫ですか。お手伝いしましょうか？」と声をかけた運転手さん。なんて爽やかな気持ちのいい対応でしょう。みんな納得したと思います。私は降りる時「ありがとう」は言えましたが「素敵な対応でしたね!」と若い彼にも一言、勇気を出して伝えなかった。

65年目に…

埼玉県入間市 澤村美穂子 63歳



私の母は94歳。元気に暮らしている母の元に、65年前の戦争で台湾に出兵した実兄の日章旗が戻ってきた。3つ上の兄だそうだが、戦争を知らない私達にとってはまるでテレビドラマのような出来事で、ただびくりするばかり。

戦場で米国のパイロットが拾ってくれ、「日本の親族に何とか渡してあげたい」という思いで探してくれて、大勢の方々の善意を頂き、奇跡的に辿り着いた白布。1メートル四方の中心に日の丸、周りに父母、おじ、おばの懐かしい名の寄せ書き。旗は、踏まれることなく、きれいなままだった。この旗の出現で、親族一同久々に顔を合わせ、長寿の母を中心に思い出深い集いになりました。皆様に感謝します。

「並べ方や色彩、盛りつけも大事よ!」お料理が大好きなおばちゃんのおかげで、私もお料理好きになりました。

おばちゃん
福島県ダスキンななみ 青戸ゆかり 47歳



おばちゃんは、12歳で母を亡くした私に母親のような愛情をそそいでくれました。日曜日には食料品を持って来て、一緒に食事を作り、得意のメニューを次から次へと教えてくれました。

「並べ方や色彩、盛りつけも大事よ!」お料理が大好きなおばちゃんのおかげで、私もお料理好きになりました。高校の修学旅行の日、祖母は「新幹線の中で食べるように」とお弁当代を持たせてくれましたが、内心「どうやって一人で買えばいいのかしら?」と不安でした。集合場所の駅に着いた時、おばちゃんがお昼のお弁当を持って、見送りに来てくれていました。あの時のお稲荷さんは、一生忘れられません。おばちゃん、最高の味でしたよ。

注射は苦手

岐阜県ダスキン華陽支店 藤原照子 58歳



会社一気な50代の男性をご紹介します。実は注射が苦手ですが、ある日一大決心で「よし、今度こそは頑張るぞ!」と血液センターへ行き、ニコニコ笑顔で戻りま

した。

奥様が出産の時、200ccの輸血をされ、お子様は助からなかったそうなのです。

以来25年、人様から頂いた恩を忘れず、血液を返すための献血をしようと何度も試みたけれど、注射が苦手だったので…。

そろそろ年齢のタイムリミットもあり、今回初めての成功でした。「あと4回、200ccまで頑張る」と体調管理に励んでいます。

また、寄付も25年間続け、その表彰も断るなど謙虚さに頭が下がります。今夏、主人を亡くした私にも「元気ですか」と折にふれ声をかけてくれるひとなのです。

頑張りよ

兵庫県多可町 安田統彦 65歳



認知症の妻と一緒にスーパーで買い物ですませた時のことです。帰ろうとすると歩かなくなったので、かなり無理やりに手を引っ張っていたところ、

「あかんあかん、しんどいのや。ここに居り。いい物がある」と杖やイスになる折りたたみの便利グッズを持ってきた、「ここに座らしたげ。わしも妻の介護をしとる。お互いや」と私に言い、妻には、「お父さんの言うことをよく聞いて、頑張りよ」と励ましてくれたので、妻は笑顔でうなずいていました。思わず涙が溢れ、名前だけでもと思ったのですが、無言で立ち去られました。小生も誰かに返さなくては…、そう思った一日でした。

漁師ひと筋

大阪市 河野元美 25歳



3年前に亡くなった祖父は、戦争にも行ったそうですが、漁師ひと筋でした。「今日はタイがとれたから食べに来て」「今日はタコもあるぞ」「じいちゃんからうれしそうな電話が毎日ありました。

今の私よりも若い頃にたくさんの戦友を亡くした話をしてくれて、命の尊さを学びました。食糧も乏しかった時代の話も聞き、食べ物の大切さを教わりました。「今、当たり前前にしている事でも、毎日感謝の気持ち忘れず、大切に一日を過ごさない」とよく言っていました。

私の自慢のじいちゃんの話、いずれ結婚して子供が生まれたら、いっぱい話すけんね。天国から見よってね。

小さなお店

横浜市 内野茂子 74歳



商売を始めて30年。文房具やお菓子の小さな店でしたが、近くにスーパーもなく大繁盛。プラモデルが流行し、子供達が大勢来て年中無休。私も若く、会社勤めの主人が帰宅するまで、お客様との茶飲み話に花が咲き、娘に工場までパンを取りに行ってもらったりしていました。

そのうち主人亡き後、娘が結婚し…。街も時代も変わり、日曜は休日に。膝の持病で「〇時まで閉めます」と貼り紙して通院。それでも、昔、常連だった子が父や母になり、子供らと一緒に駄菓子を買いに来て、「おばさん変わらないね」なんて聞くと、懐かしさと嬉しさが胸が熱くなるのです。

声

北海道ダスキン旭川 種田郁代 44歳



高校1年生の時です。市バスで下校中、急な腹痛で慌ててバスを降りました。痛みは増すばかりで、立っていられません。お腹を抱えて、うずくまっていると、「どうしたの？ 具合悪いの？」次のバスから降りてきた人に声をかけられました。その頃の私は髪はくるくるのパーマ。スカートはくるぶしが隠れそうなほど長く、関わりたくない風貌の女の子でした。「私の家、近所だから、嫌でなければ休んでいかない？ 歩ける？」布団をしき、お腹に湯たんぽをあて、鎮痛剤をくれました。名前は思い出せません。ただ、今は亡き母と同年代らしく感じました。優しい声は今でもハッキリ憶えています。時にふと思います。

「あの人は元気でいらっしゃるかしら？」

ありがとうはすごい！

福岡県ダスキン福ほか 浅海理華 45歳



家の調子いい娘はフロ洗係。しかし、「おフロ洗って」と言わないと洗いません。ある日、かけ声なしで待つてみた。一向に洗う気配はない。だんだんムカムカしてきた私は、もう娘のお願いは聞かない！とプリプリ、ゴシゴシと自分で洗い始めた。フロ洗いも終盤、娘が2階からゆ〜っくりと降りてくる足音。腹が立つ。私は言いたいことを頭いっぱい詰めた。が、娘はなんとトイレに入った！もう怒り絶頂。まずフロやろ！と、私は娘の前に仁王立ちすると、娘は一言。

「ママ、ありがとう」…そして、去っていった。えっ!? そんなつもりじゃない! と思いつながら、頭のとっぺんの怒りが、すうーとお腹を通つて、おフロの床に抜けて

アリガト



忘れないよ

兵庫県ダスキンマイナー 岡田由香 52歳



15年前、長男が入院した時のことです。小1で尿管狭窄で、奇病ではないけれど、母親として不安ばかりで胸が張り裂けるような毎日を送っていました。

ちょうど盲腸で入院してきたお兄ちゃんが、長男の勉強を見て遊んでくれ、相手をしてくれて、病室なのに笑いが絶えなかった…。すごくうれしく思えました。

いよいよ手術当日。手術が長引き、なかなか戻って来なくて落ち込んでいると、「あ、退院したのになんて？」お兄ちゃんが来てくれて、手術が終わるまで、一緒に待っていてくれたんです。しかも、息子への手紙を手持つて。胸が熱くなりました。息子は22歳。大学生になりましたよ。

娘からの気遣い

熊本県氷川町 堀川加奈子 34歳



現在3人の子育て真っ最中。育児と家事に追われ、自分の時間などほとんどない毎日、ストレスも発散できず、毎日カリカリしていました。長女は6歳。

「だっこして。あとでいいから」おかあさ



*ダスキンのお客様の場合は、店名を記載しております。

いった。今も娘へのかけ声はなくならないが、ありがとうの凄さを教えてくれた、のーてんきな娘にありがとう。

留守番

千葉県ダスキン成田 栗原成子



うちは農家。犬は庭先の番犬で、猫は気ままに納屋で過ごすといった具合。でも家族旅行で丸3日の留守となると心配で、「エサやりだけ」と友に頼んで出かけた。帰宅して真っ先に猫の様子を見に行く。と、野菜のコンテナで作ったベッドの毛布の中で丸くなつてすやすや。その傍に白い紙があつて表裏に文字がびっしり。『留守番日誌』でした。優しい友が2匹の様子を書いてくれていた。エサだけでなく、2匹に声をかけて、淋しがらないようにフオーして下さったんですね。

感謝の気持ちで胸いっぱい。思えば、何かある度に頼りにしてきた友だった。気安く頼んだのに、いつも誠実にずっと支えてくれたのだ。これから、私も力になれることがあれば必ず…と思いました。

新聞受け

岩手県花巻市 鎌田清子 60歳



誰が見ても小学生の工作。長男が小6の夏休みに作った新聞受けを親子で取り付けて以来、大満足で使い続けてきた。

台風や吹雪の日は吹き飛ばされ、その都度、補修しては再使用。底の抜けそうな時は、そつと入れてくれたんではないかと、新聞配達のお兄さんの気遣いが伝わって来る日もあった。単なる親の思い入れでボロボロになるまで使い続けた新聞受け。昨年やつと取り替えた。配達してくれてありがとう。東北の冬は厳しい。これから寒さに向かいますが、どうぞよろしくね。

んがおしごとおわたたらあそぼうね」かなり控えめな言い方がいじらしく、遊んでやりたいと思いつつ、下の子の世話で満足にかまつてもやれない。いつも苛つく最低な母親の私に、娘が渡した手紙。

「おかあさん、だいすき」私の絵つきでした。我慢ばかりさせて、ごめんね。

ありがとう お母さん

愛知県ダスキンあい夢 阿部由美 49歳



お母さん、もう歩けなくなったけれど、私の中では、いつも忙しそうに働いているんですよ。

見えないものに話をしているけれど、笑顔でおしゃべりしてた元気なあなたの姿。食事まともにとれなくなったけれど、昔一緒に食べたご飯の味は忘れないよね。あなたのオムツを取り替えながら、昔はわたしのオムツを優しく替えてくれたんだろうなあと 생각합니다。お母さん、生んでくれてありがとう。

前号と今号を記念号として、さらに1000号まで頑張りたいな、と願っています。これからもこの小さな新聞がお客様とダスキンをつなぐものとして、続けてお届けできますよう励んでまいります。皆様にご覧いただける一粒のタネとなりますように。

あなたのお便りや
写真をお寄せください

●みなさまからお寄せいただいたお話をもとに新聞をつくってまいります。どうぞ、あなたが体験した嬉しかったこと、誰かに聞いてもらいたいことなど、身近な話題をお寄せください。

●投稿には、名前、年齢、職業、住所、電話番号、現在ご利用のダスキンの店名をお忘れなく。紙面やホームページでご紹介させていただいた原稿や写真にはお礼をさせていただきます。

●送り先
〒163-0223
東京都新宿区西新宿2丁目6番1号
新宿住友ビル23階(私書箱47号)
ダスキン「喜びのタネまき新聞」編集室
電話 03(5909)6703
e-mail: koho4@mail.duskin.co.jp

無料 おそうじ相談
実施中!

ダスキンコールセンター
平日の9:00~17:00
0120-100-100

●2ページの中野洋一さんのアトリエ
〒896-1301 鹿児島県薩摩川内市鹿島町蘭牟田2131-203

燈々無尽

燈々無尽

「二燈をもって百燈をもやす」と仏法では申します

次から次ともやしつづけることです
私は貧乏で学歴もなかったのですが
たったひとつ
何にも

かけがえのない大切なものを
無学な母から、ゆずりうけました
それは「愛と信仰のともしび」でした

鈴木清一

詳しくはwebで
「ダスキンのエコ」
を検索してネ。

おさかなが
棲めるくらい
キレイな水
なのよ



たくさんのマットやモップ
を洗うダスキンの工場では、洗濯に使った水の汚れを取り除き、**キレイな水**にして自然に還しています。法律で決められた排水の水質規制値の基準より、さらに厳しい自主基準を決めて、取り組んでいます。

(ダスキン環境シンボルマーク)



ダスキンのお客様係募集中!!

詳しくはwebで

お客様係

検索

※お仕事内容や募集要項をご覧ください。



携帯からも
アクセス

お楽しみクイズ

自然にキレイな
何を還している？

キ レ イ な



正解者の中から30名様に
「キッチンきれいセット」を
プレゼント!



下記の要領でご応募ください。

◆ハガキに

①クイズの答え②郵便番号③住所④氏名⑤年齢⑥性別
⑦電話番号⑧現在ご利用のダスキンの店名をご記入の上、
下記あて先までお送りください。

◆締め切り 平成23年3月18日(金)当日消印有効

◆ダスキン関係者の応募はご遠慮ください。

◆当選者の発表は、プレゼントの発送をもってかえさせていただきます。
(平成23年4月中旬お届け予定)

◆あて先 〒163-0223

東京都新宿区西新宿2丁目6番1号

新宿住友ビル23階(私書箱47号)

(株)ダスキン「喜びのタネまき新聞」クイズプレゼント係

◆応募に関するお問い合わせ TEL:03-5909-6703

※抽選結果に関するお問い合わせはお受けできません。予めご了承ください。

今回ご応募いただいた個人情報については、(株)ダスキンの範囲内でのみ利用させていただきます。プレゼントの抽選・発送の目的以外には使用いたしません。個人情報に関するお問い合わせや、ご自身の個人情報の開示・訂正・利用停止については、(株)ダスキン「喜びのタネまき新聞」クイズプレゼント係 TEL:03-5909-6703 までご連絡ください。

第499号のクイズの答えは「かんそうぎ」でした。

●この新聞をお届けしているのは

株式会社 **ダスキン**

発行：広報・広告部 〒564-0051 大阪府吹田市豊津町1-33

編集：「喜びのタネまき新聞」編集室

〒163-0223

東京都新宿区西新宿2丁目6番1号 新宿住友ビル23階(私書箱47号)

TEL:03-5909-6703 FAX:03-5909-6771

【お客さまの個人情報のお取り扱いについて】

お客さまの個人情報は商品のお届けや回収、サービスの提供に利用させていただきます。また、後日商品やサービスのご案内をさせていただく場合があります。なお、お預かりした個人情報はダスキングループ企業と加盟店の範囲内で利用させていただきます。配送業務等で個人情報を外部企業に委託する場合は、弊社の厳正な管理の下で実施します。

個人情報に関するお問い合わせや、ご自身の個人情報の開示・訂正・利用停止については、下記ダスキンコールセンターまでご連絡ください。

■ダスキンコールセンター

0120-100100 www.duskin.jp